

'09いわて

スポーツ
この1年

⑩

県出身プロ選手の活躍が目立つ1年だった。Jリーグの最優秀選手賞(MVP)に鹿島のMF小笠原満男(盛岡・大宮中・大船渡高)が輝き、プロ野球では巨人の木村正太投手(一関一高)が日本シリーズに登板するなど7年ぶりの日本一に貢献。バスケットボールの川村卓也(盛岡南高)は米國挑戦した。ワールドカップ(W杯)に2大会連続出場した小笠原は過去5度ベストイレブンに選出されているものの、初めてのMVP獲得。J1史上初のリーグ3連覇に貢献した主将の存在は大きい。攻守にピッチを走り抜き、広い視野で好機を演出した。ベストイレブンにチームから3人しか選ばれなかったことに「来

小笠原がJリーグMVP

年はこの場にチームメイト全員で立ちたい」とコメント。個人の名誉よりもチームでの栄冠を優先する姿勢も印象深い。自らが総合アドバイザーを務め、中学生までの世代を育成するクラブチーム「レノヴェンスオガサFC」が今春誕生。けり初めへの参加など若手の子どもたちと交流し、古里への貢献も忘れない。

若手も躍動した。磐田で2季目を迎えたMF山本脩斗(盛岡商高・早大出)は、リーグ序盤からは計21試合、今季全試合の約半分の約1600分間の出場だ。先発フル出場。ピッチに立った

次代の育成に貢献も

07年に発症した原発性左鎖骨下静脈血栓症が9月に再発する

秋のドラフトでは、西武に菊池雄星(花巻東高)、ソフトバンクに下沖勇樹(福岡中・光星

アキシメントもあったが、11月

得点王を争っている。(中村有希(終わり))



Jリーグ最優秀選手賞に輝いた小笠原満男。若手への恩返しを誓い「レノヴェンス オガサFC」では子どもたちを直接指導した11月29日、盛岡市・盛岡南公園球技場

にはトレーニングを再開し来季の復帰を目指す。盛岡商高の全国制覇メンバーは、5月にJリーグデビュー。出場は1試合の10分間だった。小笠原以来、本県2人目の高卒Jリーガーの来季以降の活躍を期待したい。

プロ野球も熱かった。木村は5月、入団5年目で初の1軍登録。25試合に登板し、初勝利はならなかったが日本シリーズで2試合に登板した。首脳陣からの厚い信頼を感じさせた。

小笠原は昨年9月に左ひざを故障したため、開幕戦では後半終了間際の途中出場だった。全34試合中、出場停止となった2試合以外、すべて出場。バスケットボールの川村は今季、リーグ戦全42試合のうち18試合を終え、1試合平均20・69点で得点ランキング1位につけている。

学院高)、広島に伊東昂大(盛岡大附高)が指名された。来季は3人の飛躍、成長から目が離せない。

バスケットボール男子の日本リーグで川村は、2008-09シーズンの得点王とベスト5(優秀選手)に輝いた。日本屈指のシューターは、NBA挑戦のため日本代表入りを辞退し、5月上旬に渡米。サンズがサマリーリーグ(7月)のメンバーに川村を追加した。NBAの登竜門となるサマリーリーグでは4分24秒の出場で無得点。リーグ途中で戦力外になり「挫折感もあったけど来年も挑戦したい」と世界レベルを痛感した。09-10シーズンは、リンク栃木に復帰。